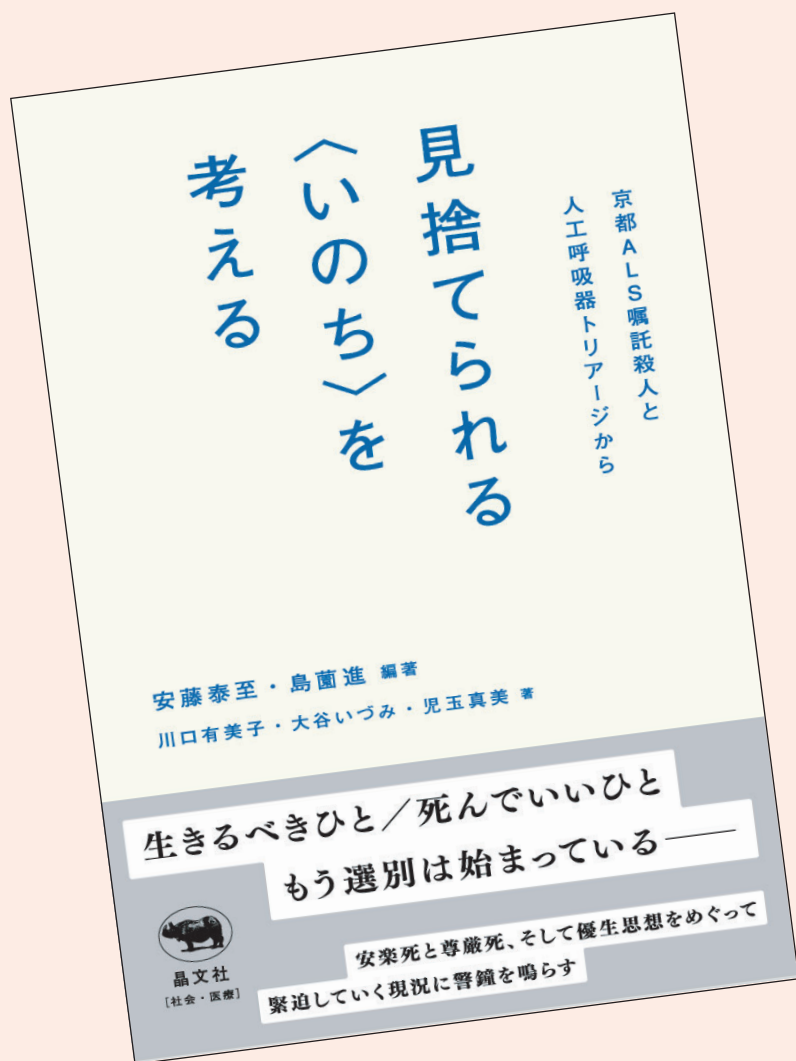


「生きるべきひと」  
「死んでいいひと」  
もう選別は始まっている——



2020年7月、ALS(筋萎縮性側索硬化症)の女性患者に薬物を投与したとして、ふたりの医師が嘱託殺人の容疑で逮捕された。

同じ年、コロナ禍で医療が逼迫するなか、人工呼吸器をどの患者に優先して使うべきかの議論が紛糾。医療がひとの生命を縮めうるという事実、私たちは直面せざるを得なくなった。

研究者として当事者として支援者として、死生学や生命倫理に長らく携わってきた著者たちが緊急セミナーで結集。

**安楽死と尊厳死、  
そして優生思想をめぐって  
緊迫していく現況に警鐘を鳴らす**

 **晶文社**

全国の書店・ネット書店で  
お買い求めください。

京都ALS嘱託殺人と人工呼吸器トリアージから

見捨てられる

へいのちをを考える

四六判並製・264頁  
定価：本体1800円＋税  
ISBN978-4-7949-7280-4 C0036

10月27日発売予定

**安藤泰至＝編著**

鳥取大学医学部准教授、日本学会会議連携会員。

**島蘭進＝編著**

上智大学グリーンケア研究所所長、東京大学名誉教授。

**川口有美子＝著**

NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会副理事長。

**大谷いづみ＝著**

立命館大学産業社会学部教授、同大学生存学研究所副所長。

**児玉真美＝著**

フリーライター、一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事。